

教育委員会だより

発行日 平成26年2月 日
編集・発行 葉山町教育委員会教育総務課
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内2050-9
T E L. 046(876)1111
F A X. 046(876)1861

いそぎく

第245号

入場者数 3,639人

	福祉文化 会館会場	教育総合 センター	合 計
児童・生徒	1,178	1,209	2,387
一 般 等	648	604	1,252
合 計	1,826	1,813	3,639



1月23日(木)から26日(日)まで、平成25年度葉山町小・中学校作品展が、開催されました。この作品展は、葉山町立小・中学校の児童生徒が、日常の教育活動で制作した作品を展示するものです。

「立体部門」は、教育総合センター2階の学びの広場、研修室、会議室1・2にて、「絵画・書写部門」は、福祉文化会館の大会議室と二か所に分かれての開催となりました。

「立体部門」には、小・中学校6校合わせて1394点、「絵画・書写部門」には、1280点の作品が展示されました。木の枝や落ち葉などで作られた動物や朝顔の蔓を使ったリース、色付けた紙粘土や空き箱で作ったおもしろなお菓子やお弁当、手作り絵本、版画、ステンドグラスなどが展示され、見る人の目を楽しませてくれました。

教育総合センター会場には、4日間で1813人、福祉文化会館会場には、1826人の方が観覧に訪れました。

平成
25年度

葉山町小・中学校作品展



来場者の方々からは、子どもたちの励ましや称賛などさまざまな感想・ご意見をいただきました。一部をご紹介します。

●小学生から中学生の作品を見て、ちがうところは、小学生はゆかいで楽しい作品だけど中学生のお兄さんお姉さんたちは美しい作品だったのでそれぞれのちがう良さがあったよかったです。

●自分の作品がかざられてうれしかったです。他にもいろいろな作品がかざられておもしろかったです。らいねんも楽しみにしています。

●中学校のサッカーのくつがうまくかったです。どの作品もすごくきれいでました。ほくもあんな作品を作りたくありません。



●町内のすべての子どもの作品を展示してあることは、子どもたちにとって良い教育活動だと思います。苦手だと思っている子ども大切にかざってもらえとうれしく思います。

●子ども達が一生懸命制作したことが伝わってきてどれも素晴らしかったです。

みんなレベルが高くて今の学生でなくてよかったと思うほどでした。

子育てシンポジウム開催

葉山町子育て地域教育会議は、平成13年度に発足しました。学校・地域の教育のために活動する各機関・団体等の関係者が一同に会し、町の「子育て」、「子どもを取り巻くさまざまな課題」等について話し合い、ネットワーキ化を図ることを目的に活動しています。

この活動の一環として、1月28日（火）、子育てシンポジウムが開催されました。「コミュニケーションEnjoy」能力開発のすすめ〜子どもに関わる大人同士のコミュニケーションについて〜という演題で三好良子先生にご講演いただきました。

「現代子育て中の親事情」「親・支援者として、ポジティブの達人」をめざす」「人間力&関係力を磨く、子育て術「基本のき」「親育て能力開発のすすめ」という内容でした。

コミュニケーションは、スポーツのように学び練習することで向上すること、視点を変えて相手を見ることでこれまでも違った気持ちで接することができます。不平・不満を言うのではなく相手に伝えることが大切であることなどを具体的な例を挙げながらお話いただきました。

その中に、次のような問いかけがありました。

「どんな言葉を入れますか？
「鳴かぬなら」
「ホトトギス」

会場では、「一緒に鳴こう」「鳴いて見せよう」「笛をあげよう」「寝て待とう」「まかせてみよう」等の言葉ができました。

「それもあるかな」「そんな時もあるよ」と受容してあげることが必要な時もあります。「笛をあげよう」のように、代案を出してあげることが必要な時もあるかもしれません。現代の子育てには、このような考え方が大切なのではないでしょうか、とおっしゃっていました。

講師：三好良子

人材育成コンサルタント・人間関係士・日本GWTグループワークトレーナー
協合理事長 他



作ってみませんか？

平成25年12月4日に「和食・日本人の伝統的食文化」が、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録されました。「和食」は単に「食」と言う意味だけではなく、和食全体にまつわる「食の文化」が評価されました。

「和食」の特徴として、次の4点があげられています。

○多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重

○栄養バランスに優れた健康的な食生活

○自然の美しさや季節の移ろいの表現

○正月などの年中行事との密接な関わり

「和食」は、ご飯と汁物、主菜、副菜という「一汁三菜」が基本とされています。このような食事スタイルは、平安時代末ごろに登場したと言われています。

また、日本列島は南北に長く、海、山、里と表情豊かな自然が広がっているため、各地で地域に根ざした多様な食材が用いられています。

葉山町の小学校においても、季節に合わせて葉山町やその近郊、県内でもれた食材を使った給食を提供するよう努めています。

ある日の献立の中から、葉山町で獲れたしらすを使った料理を紹介しましょう。

しらすチャーハン

①米を研ぎ、米・麦を水につけておく。

②ねぎを洗い、粗いみじん切りにする。たけのこは水煮を使用し、食べやすい大きさに切る。

③しらすは、急速冷凍品なので、茹でておく。

④米を炊く。

⑤フライパンにごま油をいれ、たけのこ、ねぎ、しらすの順に炒め、スープストック・塩・こしょうで味付けをする。

⑥炊きあがったごはんに、⑤を混ぜて出来上がり。

*学校給食用なので、分量等はご家庭で加減して下さい。

*食数が多いため、ご家庭で作る炒飯のように、調理が出来ないため、炒めた具を炊きあがったごはんに混ぜています。

調理のポイント

海で水揚げされたしらすを、浜で釜ゆでし、急速冷凍したもので、ほとんど臭みはありません。そのまま炒めるより、一度ゆでてからの方が、臭さも出ず、塩分も抑えられます。



できあがり

材料名 (1人分)	分量 g	栄養価												
		エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	マグネシウム mg	鉄 mg	亜鉛 mg	ビタミンA μgRE	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg	食物繊維 g	食塩相当量 g
精白米	60	214	3.7	0.5	3	14	0.5	0.8	0	0.05	0.01	0	0.3	0
精麦	6	21	0.4	0.1	1	2	0.1	0.1	0	0.08	0.03	0	0.5	0
しらす	25	52	10.1	0.9	130	33	0.2	0.8	60	0.08	0.02	0	0	1.7
ねぎ	10	3	0.1	0	3	1	0	0	0	0	0	1	0.2	0
たけのこ 缶	10	2	0.3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0
ごま油	1	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
しょうゆ	2	1	0.2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0.3
スープ ストック	0.6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
塩	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
こしょう	0.01	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コラム

家庭と学校をつなぐ（その2）

「どんな学力が必要か？」

現代ではどのような学力が必要だと
言われているのでしょうか？

前回ふれた「学習指導要領」を作るにあたって文部科学省では、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体のバランスのとれた力「生きる力」が必要であるとしています。

また、情報機器が発達している現代では、「知識」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」が重要であると言われています。

時折、新聞等でも話題になる国際的な学力調査では、各国の専門家が集まり、何十年先を生きていく今の子ども達が、将来必要となるであろう力は何かであるのか議論し、その力が身につけているかを設問にして調査しています。

このような調査で、日本の子ども達が、言葉を使った解答が苦手だったこともあり、学習指導要領では全教科において「言語活動」を重視しています。教科書が厚くなったのは、単に「知識」を増やしたのではなく、新しい「学力」を身につけるためであり、学校でもこれらのことに力を入れた授業を行っています。



イソギク

Chrysanthemum pacificum

キク科

イソギクは、千葉県犬吠埼から静岡県の御前崎、伊豆諸島の太平洋沿岸にのみ自生する固有のキク科の植物です。本種は、晩秋から初冬に房状に小さな黄色い花を咲かせます。

イソギクの祖先は、標高2500m以上の高山に自生するイワインチンと考えられています。過去の氷期に低地まで自生域を広げた高山植物のイワインチンが、その後、温暖化によって変化した低地の環境に適応進化した結果イソギクが生まれたと考えられています。

現在、イソギクの自生する海岸は少なくなり、葉山一色海岸では自生する個体群が見られなくなりました。神奈川県下の海岸でも同様にイソギクの自生群落は減少しています。また、茨城県では絶滅。千葉県、愛知県では絶滅危惧Ⅰ類（保護を要する生物）に指定されている植物です。イソギクをはじめ、自然豊かな葉山町に残る、貴重な自然を正しく理解し、大切にしましょう。

葉山町教育委員会の広報誌「いそぎく」は、イソギクの花言葉である「感謝」になぞらえ名づけられました。



平成25年11月 しおさい公園で撮影